

# 第16回建築BIM推進会議 議 事 録

■日 時 2026年(令和8年)3月24日(火)10:00~12:12

■場 所 Web会議にて

■出席者 (敬称略)

【学識経験者】 ◎:委員長

◎松村 秀一	神戸芸術工科大学	学長
志手 一哉	芝浦工業大学 建築学部建築学科	教授 (欠席)
蟹澤 宏剛	芝浦工業大学 建築学部建築学科	教授
清家 剛	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	教授 (欠席)
安田 幸一	東京工業大学	名誉教授 (欠席)
小泉 雅生	東京都立大学大学院 都市環境科学研究科	教授

【設計関係団体】

大石 佳知	公益社団法人 日本建築士会連合会
佐野 吉彦	一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
岡本 尚俊	公益社団法人 日本建築家協会
伊藤 央	一般社団法人 日本建築構造技術者協会
望月 温	一般社団法人 日本設備設計事務所協会連合会
佐々木 真人	一般社団法人 建築設備技術者協会
森谷 靖彦	公益社団法人 日本建築積算協会

【審査者・特定行政庁】

青木 成昭	日本建築行政会議
谷山 拓也	一般財団法人 日本建築センター <代理>

【施工関係団体】

曾根 巨充	一般社団法人 日本建設業連合会
田伏 雅樹	一般社団法人 全国建設業協会
三村 陽一	一般社団法人 日本電設工業協会
古島 実	一般社団法人 日本空調衛生工事業協会
松下 佳生	一般社団法人 日本建材・住宅設備産業協会

【維持管理・発注者関係団体等】

宮内 尊彰	一般社団法人 住宅生産団体連合会
猪里 孝司	公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会
奥田 修一	BIMライブラリ技術研究組合
田村 元	一般社団法人 不動産協会

服部 裕一 一般社団法人 日本コンストラクション・マネジメント協会

【調査・研究団体】

藤本 秀一 国土技術政策総合研究所  
武藤 正樹 審査タスクフォースリーダー/国立研究開発法人 建築研究所  
山下 純一 一般社団法人 buildingSMART Japan  
下川 雄一 一般社団法人 日本建築学会

【情報システム・国際標準関係団体】

三橋 さゆり 一般財団法人 日本建設情報総合センター  
春原 浩樹 一般社団法人 建築・住宅国際機構 (欠席)  
安藤 恒次 一般財団法人 建築行政情報センター

【発表者(委員・委員代理以外)】

三戸 景資 一般社団法人 buildingSMART Japan  
寺本 英治 BIMライブラリ技術研究組合

【オブザーバー(国土交通省)】

藤本 陽一 国土交通省 大臣官房 技術調査課 課長補佐  
末兼 徹也 国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 整備課 課長  
渡邊 建介 国土交通省 不動産・建設経済局 不動産業課 係員 <代理>  
井上 堯 国土交通省 不動産・建設経済局 建設業課 企画専門官 <代理>  
松野 秀生 国土交通省 住宅局 建築指導課 課長

【事務局】

国土交通省 大臣官房 官庁営繕部 整備課 施設評価・デジタル高度化推進室  
国土交通省 不動産・建設経済局 建設業課  
国土交通省 住宅局 建築指導課

■配布資料

(議事次第)

- 資料 1 建築BIM環境整備部会委員名簿
- 資料 2 建築BIM環境整備部会の活動報告 説明資料
- 資料 3 【部会2報告】「BIMモデルの形状と属性情報の標準化検討部会」説明資料
- 資料 4 【部会3報告】「BIMを活用した建築確認検査の実施検討部会」説明資料
- 資料 5 【部会4報告】「BIMによる積算の標準化検討部会」説明資料
- 資料 6 【部会5報告】「BIM の情報共有基盤の整備検討部会」説明資料
- 資料 7 【団体報告】日本建築士会連合会 説明資料
- 資料 8 【団体報告】日本建築士事務所協会連合会 説明資料

- 資料 9 【団体報告】 日本建築家協会 説明資料
- 資料 10 【団体報告】 日本建築構造技術者協会 説明資料
- 資料 11 【団体報告】 日本設備設計事務所協会連合会 説明資料
- 資料 12 【団体報告】 建築設備技術者協会 説明資料
- 資料 13 【団体報告】 日本建設業連合会 説明資料
- 資料 14 【団体報告】 全国建設業協会 説明資料
- 資料 15 【団体報告】 日本電設工業協会 説明資料
- 資料 16 【団体報告】 日本空調衛生工事業協会 説明資料
- 資料 17 【団体報告】 日本建材・住宅設備産業協会 説明資料
- 資料 18 【団体報告】 不動産協会 説明資料
- 資料 19 【団体報告】 日本コンストラクション・マネジメント協会 説明資料
- 資料 20 【団体報告】 建築行政情報センター 説明資料
- 資料 21 来年度の建築BIM推進会議の体制について

# 1. 開 会

---

## 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 定刻となりましたので、ただいまから「第16回建築推進会議」を開催いたします。本日は大変お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。司会進行を務める国土交通省住宅局建築指導課の野口です。本日はよろしくお願いいたします。
- 本日は、Web会議にて開催を行います。本日の資料につきましては、国土交通省ホームページにてデータを公開しておりますのでご確認ください。また、画面共有機能により投影もいたしますので、そちらも併せてご確認ください。
- 次に、Web会議の注意点についてご説明いたします。委員、オブザーバーのうち、発言者以外はミュートにしてください。委員、オブザーバーのうちで、ご発言をされたい場合、「手を挙げる」機能により手を挙げていただき、進行により指名を受けた後に、マイクのミュート解除およびビデオをオンにしてください、ご発言をお願いいたします。
- 最後に、本日は一般の傍聴者の皆さまからも、ZoomのQ&A機能を用いて質疑を受け付けております。時間の限りもありますので、質問の紹介を行わず後日、議事録にて回答を公開いたします。
- 続きまして、建築指導課長の松野よりご挨拶申し上げます。松野課長、よろしくお願いいたします。

## 松野(国土交通省建築指導課長)

- 建築指導課長の松野です。今年度第2回、トータルで見ると第16回の建築BIM推進会議ということで、皆さまにおかれましては、今日は本当に多くの関係団体の方にもご参加いただき、後ほどご発表いただくわけですが、ご協力いただき本当にありがとうございます。それから松村委員長にもお忙しい中BIM推進会議の運営にご尽力いただき、改めてお礼を申し上げたいと思っています。
- 本日の議事には、先週開催した環境整備部会の内容と、各団体での取り組みをご報告いただくことが入っています。その中で、例えばガイドラインに向けた改定ポイントや、それぞれのタスクフォースとワーキングの検討結果など、重要な内容が報告いただけたらと思っています。
- 来月1日までもう残り10日もないわけですが、いよいよ行政手続きの中でBIMを活用して図面審査を始めることになっています。始めるに当たって、いろいろご協力いただきましたけれども、私も直接BIMを先行して取り組んでいただいているゼネコン、特に大手5社には全部お伺いしましたし、大手の設計事務所にも行けるところには可能な限りお伺いをしました。それぞれ前向きにいろいろな観点で取り組んでいただいていることが分かって心強く思いましたし、また事業者ごとに少しずつ視点が違って、多少温度差があるとも感じました。せっかく始まるものですから、これを大いに花が開くようにしたいと思っています。
- 3年後の2029年にデータ審査が始まります。ここが重要なポイントになると思っています。今回の図面審査からデータ審査に向けてより一層、いろいろな検討を、それから協力をさらに皆さんにお願いしたいと思っています。一方で、実際に図面審査がされて、このプロジェクトがそれで行われたことをいろいろな場面に応じて紹介していき、皆さんの輪を広げていきたいと思っていますので、その際にはご協力をお願いしたいと思っています。

- いずれにしても、国全体でITや成長戦略の投資の中で、非常に大きな部分が期待されています。生産性向上にもつながるこの施策の展開に企業として、事業者として、あるいは研究者として皆さん方は関心を持って取り組んでいただいていると思いますが、国としてもしっかりサポートして展開していきたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。私からは以上です。

#### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 松野課長、ありがとうございました。それでは、議事次第の2より先の議事の進行については、松村委員長をお願いしたいと思います。松村委員長、どうぞよろしく申し上げます。

## 2. 議 事

---

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- おはようございます。それでは、今日の議事はかなりたくさんありますので、早速議事を進行していきたいと思います。議事次第の2の(1)です。先ほど松野課長からもご説明があった建築BIM環境整備部会の活動報告、資料2になります。まずこの説明を事務局からお願いします。

#### (1) 建築BIM環境整備部会の活動報告

「資料 2 建築BIM環境整備部会の活動報告 説明資料」

#### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

##### 建築BIMの普及に向けた取組の全体像(p.1)

- 資料2をご覧ください。建築BIM環境整備部会の活動報告ということで、時間にも限りがあるので簡潔にご報告をさせていただきます。
- 1ページは、建築BIMの普及に向けた取組の全体像です。令和元年にBIM推進会議を立ち上げていただきました。令和4年からは、BIMの社会実装に取り組んでいこうということで、ここに書いているように、BIMによる建築確認を可能にすること、設計・施工・維持管理間での横断的な活用の円滑化ということで、BIMの情報の標準化に関する事、特にBIMが進んでいない維持管理・運用段階でのBIMの活用促進を図っていくこと、それから中小の設計事務所・建設業者にBIMの活用を促進していくこと、特にこの4つに取り組んでいます。

##### 建築BIM環境整備部会における令和7年度の取組状況について(p.2)

- 資料の2ページです。建築BIM環境整備部会においても、この4つの取組みに沿って検討を進めています。これに加えて、昨年12月にもご報告しましたが、このBIM推進会議でまとめていただいたBIMのワークフローのガイドラインについて、2度目の改定の検討に取り組んでいます。

##### 建築BIM加速化のためのタスクフォースの設置について(p.3)

- 資料の3ページ、お願いします。検討の体制として、特に建築確認、それから情報の標準化については専用のタスクフォースを立ち上げて検討を進めてきました。

#### **BIM図面審査とBIMデータ審査(p.4)**

- 4ページで、それぞれの検討内容についてご紹介します。まずBIMの建築確認です。先ほど冒頭に課長の松野より申し上げましたが、この4月からBIM図面審査がスタートいたします。またその3年後、2029年春のBIMデータそのものを活用したBIMデータ審査の開始を目指して検討を進めています。

#### **BIMによる建築確認とBIM活用の目指す姿(p.5)**

- 資料の5ページ、お願いします。このBIMの建築確認は、BIMによって建築確認の効率化を図ることは当然ですが、ほぼ全ての新築が通る手続きである建築確認を通じてBIMの普及、それから標準化を図っていき、ひいては建築生産全体でのBIMの活用につなげていくことが大きな目的です。

#### **BIM図面審査の概要(p.6)**

- 資料の6ページ、お願いします。こちらは以前からご紹介しているBIM図面審査の概要です。真ん中のオレンジの部分をご覧ください。PDFの図書が対象ということは従来の審査と変わりませんが、左側にあるように、入出力基準に沿って作成されたBIMデータから出力された図書については、BIMの機能によりその整合性が確保されるため、図書の整合性の確認の一部を省略します。併せて、この真ん中の確認申請用CDEの中でBIMデータを提出いただき、審査の参考にさせていただき仕組みになっています。

#### **BIM図面審査のためのガイドライン等とその位置づけ(p.8)**

- 1枚飛ばしていただいて、8ページです。BIM図面審査については、タスクフォースでご検討いただきました。その成果は、この真ん中の「建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン」として取りまとめています。併せてBIM図面審査の申請・審査マニュアル、特にBIMデータの作成に関わる入出力基準の解説書、あるいはBIM図面審査を実施するための支援ツールとしてBIMのテンプレート、サンプルモデル等についても準備をしています。それから右上です。BIM図面審査の建築基準法上の取り扱いについては、建築基準法施行規則、建築確認に関する指針告示の改正を予定しています。

#### **建築基準法施行規則と指針告示の改正について(p.9)**

- 9ページがその内容です。建築基準法施行規則にBIM図面審査で用いる誓約書の位置付けを記載しています。併せて右側、整合性審査の省略に関して、原則として図書の提出を受けた時、図書間の整合性を確認することが指針の告示で定められていますが、誓約書の提出を受けた場合は、この誓約書に係る図書の記載事項の具体的内容については入出力基準に従った内容を記載いただくこととなりますが、それらの記載事項についてはこの限りではないということで、整合性の確認の省略に関することをこのように規定しています。

#### **BIM図面審査開始に向けた取組(p.10)**

- 資料の10ページです。BIM図面審査の開始に向けて、冒頭に課長より申し上げましたが、申請者側および審査側に対して働きかけを行ってきました。

#### **BIM図面審査対応審査機関(指定確認検査機関および特定行政庁) ※3/13時点(p.11)**

- 11ページです。このようなこともあって、BIM図面審査が4月からスタートするタイミングで、ここにある7つの民間指定確認機関と、下にあるように、現在検討いただいている5機関、合計12の民間指定機関においてBIM図面審査に対応いただくことになります。加えて特定行政庁においても対応が広がりがつつある状況です。

#### **BIM図面審査対応消防機関 ※3/13時点(p.12)**

- 資料の12ページ、お願いします。このBIM図面審査においては、CDEを介して消防同意などの連携を図ることになっています。全国700の消防機関のうち、4月の時点で既にこの70機関に加え、2026年度中には100機関を超える消防機関がBIM図面審査に対応し、さらにその後も対応に向けてご検討いただいている状況です。建築確認については以上です。

#### **標準属性項目リストの整備について(p.13)**

- 13ページは、2つ目の情報の標準化の関係です。昨年度、BIMの属性情報の標準化を図る標準属性項目リストを公開しました。

#### **属性項目リストの利用方法のイメージ(p.14)**

- 資料の14ページ、お願いします。今年度は、この標準属性項目リストを用いたユースケース別の標準活用ルールを検討を、積算等を例に検討いただいている状況です。後ほど報告いただければと思います。

#### **維持管理・運用段階におけるBIM活用に関する実務者WGについて(p.15)**

- 15ページです。維持管理・運用段階に関しては、12月の段階でもご報告したワーキングを立ち上げて検討を進めています。一つは維持管理・運用段階でのBIMの活用を検討するための基礎となる、維持管理・運用段階の業務においてどのような情報を用いて、どのような情報が得られているかという情報の整理です。それから、こちらはBIMのワークフローのガイドライン本体にはそこまで詳細には記載されていませんが、維持管理・運用段階でのBIMの活用に特化したガイドラインの策定を検討いただいています。

#### **維持管理・運用の業務において、必要な情報や業務で得られる情報の整理(p.17)**

- 1枚飛ばしていただいて、17ページです。情報の整理に関してはこうした形で、維持管理・運用のそれぞれの業種別に、その業務の視点からどのような情報が必要か、具体的にどのようなBIMの活用が考えられるかについて整理をしてきました。

#### **BIMを通じた建築データの活用に関するガイドライン(p.18)**

- 18ページです。ガイドラインについては今、取りまとめに向けて最終の精査をしている段階ですが、維持管理・運用段階でのBIMの活用においては、まず目的を定めて、その目的に沿ってBIMモデルの作成・活用を図っていくことが重要だということで、これに沿った形でのワークフローを提示しています。これに併せて、実際に現在でも維持管理・運用段階でBIMを活用されている事例についても、このガイドラインの中でご紹介しています。

#### 次年度以降の取組について(p.19)

- 資料の19ページ、お願いします。次年度以降ですけれども、この4月からBIM図面審査がスタートします。それを広げていくことも当然行っていきますが、2029年春のBIMデータ審査の開始に向けて、まずは年度の早期のタイミングでBIMデータ審査全体のイメージを示しつつ、併せて全体のタスク、工程表を作成していきたいと考えています。
- 標準化に関しては、ユースケース別の標準活用ルールについて、少しずつ検討も進んできているため、実際に社会実装の成果を見据えた検討を進めていきたいと考えています。
- 維持管理に関係する部分については、今回業務レベルで情報を整理しましたが、まだBIMのオブジェクトレベルであり、実務に対応した形での検討はこれからということです。主要なユースケースを念頭に、実務レベルでの標準を定めるための検討を標準化タスクフォースとも連携して実施していきたいと考えています。

#### ガイドライン第3版改定のスケジュール(p.20)

- 20ページです。最後にガイドラインの改定の状況について説明します。関係団体の皆さまにも広くご参加いただいて、ガイドライン改定のワーキングを今年度に組織して検討を進めてきました。現在2回目の団体の皆さまへのご照会をさせていただいて、頂いた意見を踏まえた最終段階での調整を進めている状況です。

#### ガイドライン(第3版)改定の全体方針(pp.21-23)

- 21ページです。ガイドラインの改定のポイントは大きく3つあります。1つ目に、前回の改定の際に「今後の検討課題」とされたものを中心として、できるものについては反映をするということで、ワーキングで議論を進めてきました。
- 資料の22ページ、お願いします。2つ目に、このガイドラインが策定されてから、その後関係団体においてもさまざま検討を進めていただき、ガイドライン等を作成いただいています。このガイドラインもかなり分量が多くなってきたため、団体共通の、国として示すべきものに限定した形でガイドラインを構成しつつ、関係団体のガイドラインを参照する形で、それぞれの関係性を記述するという全体の構成の再整理をしています。
- 23ページです。3つ目は、BIMの国際規格であるISO 19650との整合性に配慮することです。具体的には、特にわが国のガイドラインではその記載が薄弱であったCDEに関する内容を充実化していただいています。

#### ガイドライン改定における主要な改定内容(p.24)

- 24ページは主な改定内容ということで、一つ一つのご紹介は差し上げませんが、主な内容としては、例えば②BIMに係る職能ということで、BIMマネジャー、BIMコーディネーター、BIMモデラーなどの職能は、今までガイドラインの中では整理をされていませんでした。関係団体やワーキングでの議論を踏まえて、今回新たにガイドラインの中でこの職能の定義をしています。
- それから、先ほどご紹介したBIMを用いたワークフローでの情報の受け渡しに関する内容ということで、ISOとの整合性も配慮して、CDEに関する内容の充実化をしています。こちらの内容についても今、最終段階の調整を図っていて、少し年度をまたいでしまうかもしれませんが、間もなく公表しますので、ぜひ皆さまにもご覧いただければと思います。説明は以上です。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- ご説明ありがとうございました。それでは今の資料2についてご質問、ご意見がありましたら、よろしくお願ひします。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

## (2) 各部会の活動報告

### ①【部会2報告】「BIMモデルの形状と属性情報の標準化検討部会」

資料3 「【部会2報告】「BIMモデルの形状と属性情報の標準化検討部会」説明資料

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- それでは、引き続き各部会からのご説明をお願いします。初めに、部会2担当のBIMライブラリ技術研究組合より説明をお願いします。寺本さん、どうぞよろしくお願ひします。

### 寺本(BIMライブラリ技術研究組合)

- おはようございます。部会2、BLCJの寺本です。今年度の研究活動についてのご報告をさせていただきます。時間が短いので、かいつまんで説明します。

#### 2025(R7)年度活動概要(p.2)

- 資料の2ページ、お願ひします。今年度は組合としての活動の7年目に当たり、最終年度です。まず5つの部会において行った研究活動の主な点は、1つ目がBIMオブジェクト標準を拡充し、標準バージョン2.1として公表したこと、2つ目がこれまでの研究活動を総括活動報告書として整理・公表をしたことです。部会とは別にタスクグループでは、R7年度予算の「建築BIMによる設計環境整備調査」の業務を行いました。これは研究活動と整合性を図り、相互に補完し合いながら実施をしたということです。

#### 2025(R7)年度活動スケジュール等(p.3)

- 資料3ページ、お願ひします。これはスケジュールですので、ご覧いただければと思います。

#### BLCJ BIMオブジェクト標準Version2.1の公表(令和8年2月24日)(p.4)

- 資料の4ページ、お願いします。まず標準バージョン2.1の公表ですが、既に2月に公表をしています。この公表は、既に公表している標準バージョン2.0を拡充したもので、内容を整理したものです。それから、このような標準化はわれわれの活動の一つの大きな柱ですけれども、下にあるように、情報伝達をより正確に、よりスピーディーに、ミスが少なくなるようにすることで、生産性向上が期待されるなどの効果があると考えています。

#### **BLCJ 標準Ver.2.1の基本的な特徴(p.5)**

- 資料の5ページ、お願いします。このバージョン2.1の基本的な特徴を5点ほど挙げていますが、まず5番目の項目です。今回のポイントですけれども、空間オブジェクトを新しく入れたことと、免震装置、構造スリット、SRC造の柱、太陽光発電装置、あるいは電気設備関係の充実、それから建築確認に必要なダンパー等の設備機器等を加えたことがメインです。4番目に戻っていただいて、今回の標準については、既に国交省のほうで標準が出されていますが、BLCJとしては、BIMライブラリに実装できる特色を保持しつつ、国交省のBIMオブジェクト標準との整合性を図っています。

#### **BLCJ標準Ver.2.1の改定概要(p.6)**

- 資料の6ページ、お願いします。より具体的な中身ですけれども、この中で設備の項目だけ説明をします。建築確認等に必要項目を「必須」として優先順位を見直したこと、それから配電盤や照明器具などについて、ISO等と整合を取るなど、属性情報を充実したということです。

#### **BLCJ 標準Ver.2.1の対象範囲(p.7)**

- 資料の7ページ、お願いします。それらの内容をまとめた一覧表です。各領域別に項目を挙げています。アンダーラインが付いた部分が今回新たに加えた部分です。

#### **空間オブジェクト(p.8)**

- 資料の8ページ、お願いします。今回、空間オブジェクトというものを取り上げました。この空間オブジェクトについて少し説明します。ご存じの方もいらっしゃると思いますけれども、このオブジェクトは建物所有者、発注者、そして設計者などがお互いに情報を共有し合い、ライフサイクルにわたってその情報を共有できるものです。その中に必要な情報、あるいは発注の条件等を入れて共有することになっています。その下に示すように、ライフサイクルにわたる情報のマネジメントができることが特色です。

#### **空間オブジェクトの利用目的(p.9)**

- 資料の9ページ、お願いします。具体的な活用については、全部が実現しているわけではありませんが、下の表にあるように、設計条件の設定が一番よく使われていますが、その他、今後維持管理等についても可能性があるということです。

#### **総括活動報告書の概要(p.10)**

- 資料の10ページ、お願いします。総括活動報告書について説明します。これは7年間の試験研究成果を整理し、アーカイブとして広く一般の方に公開し、成果の普及を図ることを目的としています。ここに掲げたような検討対象や体制、そして今後の課題等をまとめたものですが、一番下にあるように、研究

の流れが見えるようにテーマごとの整理、全体の構成を考えています。

## 2.総括活動報告書の目次概要(p.11)

- 資料の11ページ、お願いします。これがその主な項目です。これらについてはアーカイブで4月1日以降に公開されます。

### 建築BIMによる設計環境整備調査(pp.12-14)

- 資料の12ページ、お願いします。これから3枚ほどで建築BIMによる設計環境整備調査について報告しますが、12月の委員会で報告した中身とほぼ同じです。具体的には、この右下にありますタスクグループが追加・改良しています。この中身と公表されるガイドライン等と完全に一致を図らなければいけないということで、それに努めているところです。
- 資料の13ページ、お願いします。われわれはそのサンプルモデルを公表、公開しています。事務所モデル、庁舎モデルがあり、意匠、構造、設備があります。1月末現在で1万2,000を超えるダウンロードがあり、大変関心が高いことが分かります。
- 資料の14ページ、お願いします。講習動画関係です。これは設計者向けに図面審査に取り組むヒントなどを書いたもので、このようなものも作成しています。

### (参考)アーカイブ用ホームページのイメージ(p.15)

- 資料の15ページ、お願いします。7年間の結果をアーカイブとしてどのようにオープンにするかということで、ここにはアーカイブのイメージを示しています。4月1日から3年間公開します。中身については研究成果等、あるいはロゴマーク等の取り扱いに対する注意事項、それから特にBIM図面審査の支援ツールです。サンプルモデルやテンプレートなどについて、そして先ほど説明した標準および総括報告書を一般に公開するという中身になっています。
- 今後これらに対する質問回答、あるいは修正についてどのように対応するかということですが、その中身、内容については、新しくできた一般社団法人BIM標準情報活用協会、略してBIMSIAと呼ばれますが、そちらにお願いすることで了解が取れています。7年間いろいろお世話になりました。以上です。ありがとうございました。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- ありがとうございました。それでは資料3について、ご質問、ご意見等がありましたら、よろしくお願いします。よろしゅうございますか。どうもありがとうございました。

## ②【部会3報告】「BIMを活用した建築確認検査の実施検討部会」

資料4【部会3報告】「BIMを活用した建築確認検査の実施検討部会」説明資料

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- 続いて、部会3担当の建築確認におけるBIM活用推進協議会さまからご説明をお願いします。谷山さま、どうぞよろしくお願いします。

## 谷山(一般財団法人 日本建築センター)

- 日本建築センターの谷山です。音声は聞こえていますか。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- はい、大丈夫です。

## 谷山(一般財団法人 日本建築センター)

- 本日は専務理事の香山が所用で出席できませんので、私が代わりに今年度の部会3の活動報告をさせていただきます。

### 目次(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。こちらが本日ご説明する内容です。

### (1)検討体制(p.3)

- 資料の3ページ、お願いします。初めに検討体制です。こちらの図に示すとおり、本協議会ではBIM図面審査、データ審査の検討のためのワーキンググループを設置して検討を行ってきました。

### (2)検討結果概要(p.4)

- 資料の4ページ、お願いします。検討結果の概要です。1ポツ、2ポツに書いてあるとおり、BIM図面審査とBIMデータ審査の環境整備について検討しました。まずBIM図面審査のほうですけれども、2回に分けて試行・検証作業を行い、その結果を踏まえてガイドライン等の見直しの整備を進めました。次にBIMデータ審査については、仕組みや要件の整理、工程案の検討を行ってきました。これらの検討については、推進会議や各部会、審査タスクフォースと連携して進めてきました。

### 1.「BIM図面審査」における手続・審査方法の整理、環境整備(p.5)

- 資料の5ページ、お願いします。こちらは先ほどご説明がありましたので、説明を割愛させていただきます。

#### 1)BIM図面審査の申請・審査の実施に向けた検討(pp.6-10)

- 資料の6ページ、お願いします。ガイドラインやマニュアルについては、こちらにあるとおり、昨年11月に事前公表版が出されて、本年2月には初版として公表されていましたが、近日中にこの初版の改定版が、3月版として公表される予定です。
- この初版の3月改定版は、先ほどご紹介がありましたけれども、省令が今回改正されることに伴い、従来申告書として書いていたものが誓約書となるため、それに対応することと、木造に関しては入出力基準と誓約書が追加されることになっています。また最下段の入出力基準の解説書ですが、こちらは試行・検証のプロセスを経て入出力基準の考え方などを整理し、理解の向上を目的として新たに作成されたもので、今月末に公表される予定となっています。

- 資料の7ページ、お願いします。こちらから具体的な内容をご紹介します。まず、BIM図面審査に向けた制度の実効性を確保するために試行・検証作業を行いました。その1回目の検証作業では、左側にありますけれども、整合性確認の省略が可能な範囲を正しく伝達できているか、またその範囲で整合性が確認できているかの2点を主に確認しました。そこで表れた修正すべき点などについては、右側に書いていますけれども、ガイドライン等に反映し、事前公表版として公表しています。
- 資料の8ページ、お願いします。2回目の検証では、確認申請のCDEに関する検証を主に行いました。構造適判機関や消防本部の協力も得ながら、1点目としては、申請から交付までの手続きを確実に実施できるか、そして2点目として、CDEの機能に不具合がないかを中心に確認しました。その結果明らかになった不具合等については、必要に応じてマニュアルの拡充やシステム改修などを行っています。
- 資料の9ページ、お願いします。この2回の検証作業を踏まえガイドラインなどをブラッシュアップし、初版として取りまとめられました。それらの成果はこちらの5種類の基準類に反映されています。
- 資料の10ページ、お願いします。並行して木造の入出力基準についても検討しました。木造の軸組工法、また枠組壁工法の項目や入出力基準の例はこちらに示しています。併せて、下のほうにありますけれども、木造の戸建住宅のサンプルモデルも作成しました。なおこちらには書いていませんが、CLTパネル工法についてもたたき台を作成し、その内容については来年度以降も継続して検討する予定としています。

## 2.「BIMデータ審査」の実施に向けた環境整備(p.11)

- 資料の11ページ、お願いします。続いてBIMデータ審査の検討状況です。BIMデータ審査は申請図書として、PDFの代わりにIFCデータを提出する仕組みですが、図にあるとおり、ビュー審査はIFCデータを用いて審査に必要な情報を画面上に表示し、それを目で見えて確認するものです。そしてデジタル審査は、プログラムなどのデジタル技術を活用しながら審査を補助していく仕組みを想定しています。

### 1)「BIMデータ審査」の仕組み等の検討(BIMデータ審査のメリット)(p.12)

- 資料の12ページ、お願いします。こちらはBIMデータ審査が入った場合、それぞれの関係者にどのようなメリットがあるか、現時点で想定されるものを整理したものです。

### 2)「BIMデータ審査」の実施に向けた要件整理の検討(pp.13-17)

- 資料の13ページ、お願いします。BIMデータ審査に当たっては、IFCデータの定義が必要になることでしたので、IFCデータに必要な情報を整理していくために、まず各条文で審査に必要な内容としてどのようなものが求められているかを洗い出した上で、それとBIMの入力情報との関係を整理する作業を、幾つかの条文を例に出して行っています。
- 資料の14ページ、お願いします。こちらは一つの例ですが、施行令126条の2、排煙設備の条文ではこのような作業をしています。
- 資料の15ページ、お願いします。構造の分野のBIMデータ審査に向けた取り組みですが、構造の分野においては設計者と審査者の双方から、BIMデータ審査の時には構造図と構造計算書の整合性確認を省略したいという要望が多く寄せられています。ただ、小さい字で書いていますけれども、構造分野

に広く普及しているST-BridgeとIFCとでは情報の詳細度に違いがあるため、まだ整理が必要ということで、引き続き来年度以降も検討していきたいと考えています。

- 資料の16ページ、お願いします。こちらは細かいので、説明は割愛させていただきます。
- 資料の17ページ、お願いします。続いて設備分野です。こちらに図で示してイメージを描いているとおり、設備については立体的な関係を踏まえてよく見えるようにきちんと整理すること、また審査が複雑な避雷針の影響範囲などについて、3次元で分かりやすく表現されていると、非常に審査に役立つのではないかという期待と要望などが出されています。

### 3)法令の構造化等の検討支援(p.18)

- 資料の18ページ、お願いします。BIMデータ審査に向けて法令の構造化についても作業を進めています。右側に実施概要を書いています。1点目として、各条文の関係を整理し普遍的な構造化をするとともに、2点目として、法文の中の規定内容について分類する作業をしています。

### (3)令和8年度 活動案について(p.19)

- 資料の19ページ、お願いします。まとめとして、来年度の活動内容案です。来年度は今年度の検討を継続するとともに、BIM図面審査が開始されるため、そのフォローアップを、そしてBIMデータ審査の詳細の検討を行っていく予定です。部会3の活動報告は以上です。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもご説明ありがとうございました。それでは資料4について、ご質問、ご意見等がありましたら、よろしく申し上げます。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

## ③【部会4報告】「BIMによる積算の標準化検討部会」

資料5【部会4報告】「BIMによる積算の標準化検討部会」説明資料

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- 続いて、部会4担当の日本建築積算協会さまからご説明をお願いします。森谷委員、よろしく申し上げます。

### 森谷委員(公益社団法人 日本建築積算協会)

- 積算協会の森谷です。部会4の活動報告です。

### 令和7年度の活動報告(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。今年度の大きな成果は、BIM概算ガイドブックの発行と、その公開シンポジウムの開催です。

### これまで7年間の部会4(BSIJ協議会)活動内容(p.3)

- 資料の3ページ、お願いします。今年度の活動内容の詳細はご覧のとおりです。

#### **BIM概算ガイドブック I の概要(構成)(p.4)**

- 資料の4ページ、お願いします。このガイドブックでは、3つの重要な概念を提唱しています。1つがBIMといろいろなデータベースをつなぐための基盤となる分類体系の整理。2つ目が設計の整流化。これはターゲットバリューデザイン手法の検討です。3つ目が下から3行目、皆さまから評価を頂きつつあるLOC(Level of Costing)の提案です。

#### **TVD(Target Value Design)の実現(p.5)**

- 5ページです。このターゲットバリューデザインの内容はご覧のとおりです。簡単に言うと、BIMを使うことで目標とするコストの確度を高めることが可能になるということです。

#### **BIM概算ガイドブック I の概要(概算手法の棚卸)(pp.6-9)**

- 6ページです。ガイドブックではこのようなことを、ご覧のような図表を多く使って解説しています。
- 7ページです。さらにここに分類体系を適用することで、下のほうにあるLOD、LOIに加えて、コスト情報を扱うLOCの詳細度を整理しています。
- 8ページです。このあたりは標準化タスクフォースと連携してずっとやってきています。
- 9ページです。このように、タスクフォースの報告書でパターン詳細図の例示なども行っているのですが、ご確認いただければと思います。

#### **BIM概算ガイドブック I の概要(異なる分類の関係性)(pp.10-11)**

- 10ページです。しかし実際には、BIMソフトでの部位別の分類、例えばこの図の左側ですが、これと建築コストの分類とで異なる部分が多いことは皆さんもご承知のとおりだと思います。
- 11ページです。つまりその関係性の整理が必要になるわけです。このように非常に複雑になっていますが、この真ん中の関係性の整理がかなり重要になってきます。

#### **BIM⇄概算 分類体系(Uniclass)の適用(pp.12-13)**

- 12ページです。こうしたなかなかややこしい話にも、部会4は積極的に取り組んでいます。
- 13ページです。例えば建物のバリューとコストを分類し、分類体系を使ってこのように見える化をすることで整理を図ることを提案しています。

#### **LOC (Level Of Costing)シートの目的(p.14)**

- 14ページです。そのためのツールの一つが、このLOCシートというもので、課題の見える化を狙ったシートです。ここの①から⑤にあることをこのシート上に並べることによって、一目瞭然で問題点を可視化できることとなります。

#### **LOCシート活用の提案(p.15)**

- 15ページです。これは設計者とコスト担当者だけではなくて、施主といろいろな利害関係者、ステークホルダーをつなぐためのツールとして活用いただくことを想定しているものです。

#### 今年度の活動:「BIM概算ガイドブック I」の発行と概念の整理(p.16)

- 16ページです。部会4は今年度、この1から3までの取り組みを行ってきました。設計の整流化とターゲットバリューデザイン、それからコミュニケーションツールとしてLOCシートを活用いただくという提案です。これらを踏まえて4番目、一番下のところ。次年度の展開としてはこれらの実践と、その社会実装のフェーズへと移行していくことを予定しています。

#### 次年度部会4 活動計画:実践と社会実装へ(p.17)

- 17ページです。その柱は3つあります。1つ目は、分類体系を用いたデータ基盤の構築です。目的と活動内容をご覧いただいたとおりです。2つ目はLOCシートの拡充検討と実証で、これは先ほどご説明したターゲットバリューデザインの実践ということです。3つ目は、これは文字だけだと分かりづらいので、ユースケースを作って社会実装を目指すことです。こうした活動を、われわれが考えたことが絵に描いた餅にならないようにするための活動と捉えていただければと思います。

#### 「BIM概算ガイドブック I」へのご意見を募集しています(p.18)

- 18ページです。部会4としては、BIMを単なる作図ツール、あるいは設計者のための単なる道具ではなくて、施主も含めたプロジェクト関係者全員がコストや仕様について合意形成するためのプラットフォームにしたいと思っています。この後発表があると思いますが、維持管理段階につなげる、あるいはLCAの算定につなげるためのツールとして、われわれの考えたものを使っていただけることを想定しています。
- 「概算ガイドブック I」というものを積算協会のホームページで公開していますので、ぜひ皆さんにお手に取ってご覧いただき、引き続き皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしています。部会4からは以上です。

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもご説明ありがとうございました。それでは今の資料5について、ご質問、ご意見等がありましたら、よろしく願います。よろしゅうございますか。それでは、どうもありがとうございました。

#### 森谷委員(公益社団法人 日本建築積算協会)

- ありがとうございました。

#### ④【部会5報告】「BIM の情報共有基盤の整備検討部会」

資料6【部会5報告】「BIM の情報共有基盤の整備検討部会」説明資料

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- 続いて、部会5担当のbuildingSMART JAPANさまからご説明をお願いします。三戸さま、よろしく願います。

## 三戸(一般社団法人 buildingSMART Japan)

- よろしくお願いします。buildingSMART Japanです。

### BIMデータ審査に向けたプロトタイプ開発(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。今までは図面審査に向けたお話してきましたが、いよいよ本格的にということになりますので、そちらは審査タスクフォースにお任せして、今回はデータ審査にします。私自身が外部にいて通信環境があまりよろしくなく、申し訳ありません。

### 海外のCDE(p.3)

- 3ページはおさらいになります。建築BIM推進会議のかなり初期の頃の2020年の資料ですけれども、今回の図面審査もデータ審査も、国際規格であるISO 19650のCDEの考え方に基づいて進めてきました。CDEの考え方は、いわゆるワーク・イン・プログレス、その後のシェアード、パブリッシュ、アーカイブの4象限でデータを共有する考え方です。今までのようにデータをバトンタッチで渡すのではなく、データを共有するということです。その共有のルールของ考え方に基づいて、今回のBIMの確認申請の仕組みを考えることを進めてきました。

### Common Data Environment (pp.4-5)

- 資料の4ページ、お願いします。その中で、特に今回の図面審査に関してはIFC、BIMのデータはあくまでも参考という形にはなりますけれども、基本的にはドキュメント類とBIMデータ、それからBIM以外のデータベースで管理するデータ類をセットで管理する考え方で進めてきました。
- 資料の5ページ、お願いします。IFCを用いたCDEの考え方ですけれども、基本的にはオブジェクトに関するものはIFCで情報を定義しようと。ただこの中で定義し切れないものに関しては、外部のデータをリンクさせようと。加えて、それ以外のドキュメント類をCDEの中で統合して管理をしていこうと。将来的には、例えばメーカーが出したものなど外のデータも一応見られるようにしようということが、当初進めていたCDEの大きな考え方です。これに基づいて、データ審査の場合どのような形が考えられるかという意味でのプロトタイプを考えてきました。

### BIMデータ審査に向けたプロトタイプ開発 2024年度(p.6)

- 資料の6ページ、お願いします。2024年度、実はプロトタイプとして、ここに書いてある斜線制限や延焼、容積対象の面積の話、それから防火区画を対象に昨年度やってきました。この大きな考え方としては、敷地モデルと建物モデル、いわゆる計画の建物の情報です。これに対して、その敷地に対して必要な法規、「鳥籠モデル」とわれわれはよく呼んでいますけれども、法規情報のモデルをきちんと重ねて、これらに法規の属性がきちんと入っているという、これらのものでやっていこうという大きな考え方の中でプロトタイプを作りました。

### BIMデータ審査に向けたプロトタイプ開発 2026年度(p.7)

- 資料の7ページ、お願いします。本年度はここに書いてある5項目——建築面積、防煙、採光、換気、防火上主要な間仕切りに関して、これもまた昨年度と同様の大きな考え方に基づいてプロトタイプを作ってきました。

- 資料の8ページ、お願いします。ここからはサンプルになります。これは建築面積に関わるものです。左側に設定の画面があって、右側にそれを表示するという仕組みでビューが見られるようになっています。
- 資料の9ページ、お願いします。こちらが排煙設備に関する操作の画面です。こちらも小さなウィンドーの中に表示すべきものが出てきて、右のほうで面積を確認することができるビューになっています。
- 資料の10ページ、お願いします。法規モデルとして入力された採光の必要なエリアの領域を、またこれも同じように面積として出すことになります。これは一応BIMのデータで、3Dではなくて面積を見るところで平面のビューになっていますけれども、このようなものが確認できるようになっています。
- 資料の11ページ、お願いします。こちらは換気に関わる審査で、法規モデルとして入力されているエリアの領域の面積を視認できます。こちらは計算式等で自動計算を行い、その適否を見る仕組みのものがビューとして作られています。
- 資料の12ページ、お願いします。こちらが防火上主要な間仕切りに関するものの操作画面です。こちら必要エリアの領域を確認することができるようになっています。ビューが小さくなって、非常に見にくくて申し訳ありません。これらはアニメーションも実は作ってあったのですが、時間の都合によりPDFでご覧いただいていますけれども、一応このようなものが操作できるプロトタイプを作って検証してきました。
- ただこれはあくまでも検証であり、このような見え方ができるけれども、本当にこれでいいかどうかは来年度以降、審査タスクフォースのほうで少しもんでいただくことになります。審査者として、「見方がこうではない」「このような見方がしたい」と。例えば「断面を切って見せてくれ」など、多分いろいろなご要望が出てくるかと思いますが、このようなたたき台がないと、なかなかイメージがつかめないだろうということで、われわれの活動としては、このようなプロトタイプを作ってきました。
- そして来期以降は、いよいよ本格的にこのあたりのものが入ってきます。この中では、例えばIFCの定義をどうするかなどの検討を、来年度は進めていきたいと思っています。以上で部会5の発表を終わります。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは今の資料6について、ご質問、ご意見等がありましたら、よろしくお願いします。よろしゅうございますか。どうもありがとうございました。

## (3) 各団体の活動報告

### ①【団体報告】日本建築士会連合会

資料 7【団体報告】日本建築士会連合会 説明資料

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- 続いて、議事次第2の(3)各団体の活動報告に移ります。今回は発表の団体が多いため、質疑についてはまとめて時間を取りたいと思います。まずは設計関係団体として、初めに建築士会連合会さまからお願いします。大石委員、よろしくお願いします。

## 大石委員(公益社団法人 日本建築士会連合会)

- よろしくお願いします。それでは共有いただいている資料に沿ってご説明します。

### 2025年度(令和7年度)活動内容(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。今年度建築士会連合会では、資料の「実施」と記載したところにあるように、テキストとして維持管理編の作成、それからそのテキストを基にした全国12会場での対面のセミナーを実施しました。

### テキスト維持管理編の作成(pp.3-4)

- 資料の3ページ、お願いします。こちらは過去の活動報告のご説明の中にありましたとおり、令和5年に第1部、令和6年に第2部を作成したテキストに、今年度は第3部として維持管理編をテキストとして作成し追補しました。
- 資料の4ページ、お願いします。これらのテキストは、現在日本建築士会連合会のホームページにてデジタルブックとして公開していますので、ぜひご覧いただければと思います。

### セミナーの実施(p.5)

- 資料の5ページ、お願いします。今年度実施したセミナーは、3部に分けて行いました。第1部はこれからBIMを導入する方向け、第2部は今までBIMを活用している方で知識を深掘りをするもの、第3部は今年度新たに追補した維持管理編についてまとめた内容とし、3部構成で実施しました。
- 資料の6ページ、お願いします。ご覧いただいているのは、全国12会場の申込人数と会場の様子です。都心部だけでなく地方でも実施し、それぞれ多くの参加者がありました。

### セミナーアンケート結果(p.7-9)

- 資料の7ページ、お願いします。以降の資料では、今回のセミナーで実施したアンケートについてまとめた内容をご覧ください。383件のアンケートの結果になります。
- 資料の8ページ、お願いします。まず1番目に、事業の成果と参加者の傾向としては、参加者の7割が30～50代、そして既にBIMを実施し、関与している層の課題意識を反映した内容として結果を認識しています。そして理解度の構造としては、幅広い層に適切な難易度のセミナーであったことはアンケートの結果から読み取れますけれども、より実践的であり、また具体的な学習ニーズもさらに高まっているという回答がありました。
- 資料の9ページ、お願いします。3番目は事業との関連性についてです。これまでのセミナーは技術的な内容のものが多かったのですが、今後のBIMについては運用やマネジメントに関係するトピックへの関心の高さが読み取れました。
- 一方で、全体的な4割弱のアンケートの結果ではありますけれども、「難しかった」「ついていけなかつ

た」という層も一定数存在していて、現在、BIMを問題無く扱える方と、これから使い始める方との二極化の構造が、アンケート結果からも浮き彫りになっていることも認識しています。これについては、単一のセミナーでは全数をカバーできないため、これからBIMを活用する方もしっかりと支えていきたいと思っています。

#### 次年度へ向けた取り組み(検討中)(pp.10-12)

- 資料の10ページ、お願いします。次年度の取り組みとして検討しているのは、今後も講習事業の実施と、それから修了者の見える化、スキル見える化をすすめていき、希望者に限り名簿の公開のようなことを実施したいと考えています。また各都道府県の建築士会におけるBIMの関連活動への支援や、フォローアップも行っています。
- 資料の11ページ、お願いします。今年度はご覧のメンバーで実施をしました。各バンダーの皆さんもオブザーバーとしてご協力いただきました。誠にありがとうございました。
- 資料の12ページ、お願いします。以上が建築士会連合会の取り組み報告になります。私自身はこれまで部会長として本会議での報告を担当しましたが以降は次の方に交代いたします。日本建築士会連合会としては、今後もBIMの活動に積極的に取り組んでまいります。ありがとうございました。以上です。

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。続いて、日本建築士事務所協会連合会さまからご説明をお願いします。佐野委員、よろしくお願いします。

## ②【団体報告】日本建築士事務所協会連合会

資料 8【団体報告】日本建築士事務所協会連合会 説明資料

#### 佐野委員(一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会)

- 佐野です。日事連の2026年の活動のご報告を申し上げます。活動は大きくこの3つです。マロニエ BIMコンペ、BIMのポータルサイトであるBIM GATEの運用の改善、3番目に教育・普及に関する取り組み、これを順次報告します。

##### ① マロニエBIMコンペティション(p.2)

- 資料の1ページ、お願いします。マロニエBIMコンペは2013年、栃木県建築士事務所協会から始めて、現在は日事連として全国的なコンペとして進めてきました。結果的に若いBIM人材の育成、それから中堅の社会人人材のBIMに取り組むチャンスの提供に効果を発揮してきたと思います。各地を巡回することによって、その地域が抱える課題とBIMの可能性を掛け合わせることで、大変中身の濃い取り組みをしてきました。
- しかしながら、参加数が30作品程度と少し天井が止まっていて、このあたりで少し改善のため、告知

期間と準備期間の不足もあるのではないかと思いますので、2026年度は開催をしません。2027年度の開催再開のために、作戦をもう少し練っていく年にしたいと思っています。国土交通省のご協力を得て、国土交通大臣賞を毎回出していることに対しては、大変感謝を申し上げたいと思っています。

## ② BIM GATE リニューアルサイトの活用(pp.2-3)

- 資料の2ページ、お願いします。ポータルサイトBIM GATEをリニューアルしました。公開予定と右下に書いてありますが、公開しています。グローバルナビゲーションの再設計、トップページの再設計、既存コンテンツの再分類にご注目いただければと思っています。
- 真ん中のところにアンケート調査と書いてありますが、まだまだBIMに関する活用がなかなか進んでいない状況を踏まえて、BIMに関するさまざまな情報を提供していこうと思っています。後ほど日本建築家協会からご報告があるBIMデータ入力方法についても、設計三会で取り組んでいたこともあってポータルサイトに上げています。ぜひ本日もご列席、ご参加の団体・部会には、ぜひこのBIMポータルサイトを建築会の共用のBIMポータルサイトとしてご活用、ご掲載いただければ幸いです。
- 資料の3ページ、お願いします。このBIM GATEは、BIM活用のステップが大きく分けて5段階あるとすれば、それぞれに対応できるようにしています。この下半分にユーザー別の活用イメージがあります。BIM未導入の経営者には、この上の「初めてのBIM」「導入ステップ」あたりをご覧ください、初心者の実務者には「BIMを学ぶ」「事例を見る」を、活用中の設計者には「事例を見る」を、各地域会・他団体には全体を眺めていただくと、BIMに関する普及をどう考えるかの参考になるのではないかと思います。

## ③ 教育・普及に関する取り組み(pp.4-5)

- 資料の4ページ、お願いします。教育・普及に関する取り組みについては、私どもの会誌『日事連』にて41回にわたってBIMの活用事例を紹介してきました。主として小事務所のBIMの活用の取り組み、工夫、改善案、改善策を、これは先ほどのBIM GATEにも掲載していますが、このような成功事例をぜひ皆さんにご覧いただくように、今後とも続けていきたいと思っています。
- また日事連は連合会ですので、各地域の単位会の強化支援ということで日事連としてバックアップをしていますが、おかげさまで各地の単位会でBIMの研修を進めていただきました。このように各地での普及に努めています。
- 資料の5ページ、お願いします。これまでさまざまな講習などをしていましたし、BIMのポータルサイトもできました。下にありますように、令和8年度の取り組み方法としては、啓蒙(けいもう)・情報収集、技術取得といった点の講習をしてきましたが、実際にまだBIMを導入するか否かを判断しかねている事業所、設計建築事務所が、評価・比較検討・導入判断ができるための支援を中心テーマに据えて、講習あるいはBIM GATEの改善、工夫をしていきたいと思っています。以上です。次年度も日事連としてBIMの教育・普及に努めていきます。よろしくをお願いします。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。続いて、日本建築家協会さまからご説明をお願いします。岡本委員、よろしくをお願いします。

### ③【団体報告】日本建築家協会

資料9【団体報告】日本建築家協会 説明資料

#### 岡本委員(公益社団法人 日本建築家協会)

- それではJIAのBIM特別委員会の岡本よりご報告します。

#### 建築設計三会 設計BIMワークフローガイドライン検討委員会 及び JIAのBIM特別委員会活動 (p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。JIAの特別委員会は設計三会さんと、主に始まる図面審査に向けて情報共有をしています。今期、その他としては、先ほどお話があったBIM標準情報活用協会(BIMSIA)が昨年末に設立されていますけれども、建築三会としてもぜひ連携をしていきたいということで情報共有をしています。そして本日のトピックである今年度の成果としては、ここにあるように、「建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法(第1版)」を取りまとめたことだと思います。

#### 『建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法(第1版)』の公開について(p.3)、■目的(p.4)

- 資料の3ページ、お願いします。これは前回の推進会議でも確かご説明しているので、概略ですが、最終版ができましたので、今日はこれについてご説明したいと思います。
- 資料4のページ、お願いします。これは前回もご説明していますけれども、目的ということで今回、成果図書を作成する場合、現状における一般的な活用方法として想定される、BIMのデータ入力の方法と、その方法を踏まえたモデリングガイドを示しています。これは何かといいますと、やはり柔軟で合理的なBIMの活用方法を提示することで、設計者の皆さんへのBIMの普及が後押しできるようになることが目的です。
- 既に建築三会としては「設計BIMワークフローガイドライン」を出していますけれども、これはどちらかというと、一貫したワークフローを実現するために、あるべきBIMデータを作成することを目的としています。けれども当面、「建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法」によって、設計者の皆さんが、特に設計実務者の皆さんがBIMに取り組みやすい環境をつくることをまずは目指そうということで、今回これをまとめました。これは以前説明したとおりです。

#### 『建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法(第1版)』表紙(p.5)

- 資料の5ページ、お願いします。これが表紙です。このような形で、なんとか今年度中にということで3月にまとめて、先ほど佐野さんからご説明があったようにBIM GATEで、昨日でしょうか、まず第1版をリリースしていただいています。

#### 『建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法(第1版)』目次(p.6)

- 資料の6ページ、お願いします。これが目次です。「はじめに」の後に、入力の方法、オブジェクト別のモデリングガイド、それからEIR、BEPをまとめています。

#### 『建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法(第1版)』はじめに(p.7-9)

- 資料の7ページ、お願いします。「はじめに」のところだけ簡単にご説明しますけれども、1ページ目は目的です。それから2つ目に、これは皆さんにとっては今更のことかと思えますけれども、BIMとCADの違いについてもう一回ここで整理しています。
- 資料の8ページ、お願いします。3つ目としては、現在のBIM設計者の状況をここに記載しています。
- 資料の9ページ、お願いします。ここを少し説明します。成果図書をBIMで作成する場合の作業効率ということで、従来の設計図書を作る時にBIMの中で全て行うことになると、データを全部入れていくのが本当に合理的かということもあります。特に詳細図関係はどうしても2次元的に書き込まなくてはいけないこともあるため、BIMが得意な部分、あるいはCADが得意な部分もあります。今のところは、それを上手に使っていくのがいいのではないかということを書いています。
- ただ5番目として、目標に応じたBIMデータへの入力情報ということで、成果図書を作る段階でのデータの入れ方をここに記載していますが、その後、例えばカーボンニュートラルの実現に向けて2028年に数字を入れることが始まりますけれども、データを入れることによってそのようなものが出しやすくなると思います。初めに申し上げましたけれども、やはり当面は「建築物の設計における成果図書の作成を目的としたBIMデータ入力の方法」を、設計者の皆さんの共通理解を図って運用し、さらに設計者がBIMに取り組みやすい環境をつくっていきたいと思っています。
- これが4ページで、今日はここまでですけれども、5ページには図面審査に活用できる場所も含めて記載していますので、図面審査に向けても非常に役に立つものができたのではないかと思います。先ほど申したように、この入力の方法の全部のページがBIM GATEに出ていますので、ご覧いただければと思います。それから推進会議のホームページにも掲載できないかというお願いをしている最中ですので、それも併せてお願いしたいと思っています。引き続き私どもとしては、設計実務者が使いやすい、そしてBIMの推進に寄与できることをしていきたいと思っています。報告は以上です。

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。続いて、日本建築構造技術者協会さまからご説明をお願いします。伊藤委員、よろしくお願いします。

#### ④【団体報告】日本建築構造技術者協会

資料 10 【団体報告】日本建築構造技術者協会 説明資料

#### 伊藤委員(一般社団法人 日本建築構造技術者協会)

- よろしくお願いします。JSCAの伊藤です。JSCAの今年度の成果を報告します。

## 活動内容(p2)

- 資料の2ページ、お願いします。活動内容です。なかなか新しい活動ができていませんけれども、データの標準化については基本的にタスクフォースへ移管していて、JSCAの活動としては、もう3年ぐらい前から特記仕様書や標準図の内容の整理をしています。これがなかなか終わらず、難しいことになっていますけれども、進んではいます。

## 特記仕様書のデータ化(pp.3-7)

- 資料の3ページ、お願いします。まず特記仕様書です。
- 4ページです。こちらはもともと令和4年版で始めていましたけれども、7年版が出たので7年版に改定し、こちらはおおむね終わったので、今公表に向けて手続きをしています。来年度には公表できる予定です。
- 資料の5ページ、お願いします。特記仕様書はもともと特記が必要な内容、特記がなくてもよいもの、あるいは各社が独自に追加されているものがあって、これらをまとめる作業をしていました。
- 7ページ、お願いします。構造に関わる部分として、4・5・6・7章のデータ化を進めていますけれども、鉄骨と耐火被覆は意匠に絡みがあるので、今後建築、意匠のほうでも話が進めば議論をさせていただきたいと思っています。
- 6ページ、お願いします。具体的なデータベースの書き方ですけれども、左側はずっと議論をしていて内容が煮詰まったものになっていて、一番右端に暫定コードを振ることにしました。こちらで場所が特定できる状態にしています。暫定コードは位置を示すものが2桁で9個に、枝番が1つ付いています。
- 7ページ、お願いします。国交省の宮繕さんでやられている「デジタル社会に向けた公共建築工事標準仕様書のあり方に関する検討会」で、IDを1から3までについては振っていただけることが確定しましたけれども、そちらの資料の中で、特記仕様書がどういう順番で記号を使っているかを提示いただきましたので、こちらの数字に沿って、JSCAで公表する特記仕様書の内容については、数字を9番まで割り振って公表することになりたいと思います。これについてはゆくゆくは国交省さんのほうで決めていただけたらと思いますので、そちらにいつかは合わせることになるかと思っています。

## 標準図のデータ化(pp.8-12)

- 8ページ、お願いします。引き続き行っている標準図のデータ化についてです。
- 9ページ、お願いします。基準図・標準図、呼び方は各社で違いますけれども、こちらは現状でも紙のデータベースとして残っていますので、これがデータ化されないと真の意味でのデータ化にはならないというのがJSCAの考えであり、基準図・標準図についてもデータ化できる構造化をすることを考えています。
- 10ページ、お願いします。元のデータを何にするかということで、日建連さんとJSCAによるRC配筋標準図をベースにしています。
- 12ページ、お願いします。こちらは、どのような書き方をするかについてはおおむね議論が済んでいますが、最終のまとめに少し時間がかかっている状況です。
- 11ページ、お願いします。今、鉄骨の基準図についても議論を始めています。こちらは部材データにはない鉄骨製作のために必要な細かいデータで、基本的には鉄骨製作者などが使われているソフトで入

力しているデータです。こちらは業者さんが紙から一生懸命手を入力する形になってはいますが、これをデータで渡すことが最終的な目標になっています。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは、続いて日本設備設計事務所協会連合会さまからご説明をお願いします。望月委員、よろしくお願いします。

## ⑤【団体報告】日本設備設計事務所協会連合会

資料 11【団体報告】日本設備設計事務所協会連合会 説明資料

### 望月委員(一般社団法人 日本設備設計事務所協会連合会)

- 日本設備設計事務所協会連合会、通称JAFMECの望月です。よろしくお願いします。当方の今年度の活動報告と、来年度の活動方針についてご説明します。

#### 報告内容(p2)

- 資料の2ページ、お願いします。そこに示してある順番でお話します。

#### 1. JAFMEC BIM推進特別委員会活動計画(pp.3-4)

- 資料の3ページ、お願いします。当JAFMECは全国47都道府県の、主に中小規模の設備設計事務所で構成されています。その中で当方の体制としては、この9人でBIM推進特別委員会を運営しています。
- 資料の4ページ、お願いします。活動は大きく分けて国土交通省のBIM関連会議への対応と、JAFMEC独自の情報提供、提言・提案活動です。

#### 2. 令和7年度活動報告(pp.5-9)

- 資料の5ページ、お願いします。続いて本年度の主な活動実績ですが、まず都道府県協会の技術講習会でのレクチャー実施です。去る12月に新潟県協会主催の技術講習会の中で、オンラインレクチャーを実施しました。テーマは営繕BIMモデルに対応した設計で、これは昨年度全国を対象にレクチャーを実施したのですが、今年度は地域の要請に基づき講師を派遣しました。会員や官公庁職員等63名にご参加いただきました。
- 資料の6ページ、お願いします。こちらは当日のレクチャー資料を抜粋したものです。なお当セミナーが非常に好評であったこともあり、今年6月には茨城県協会でも同様のセミナーを実施する予定です。
- 資料の7ページ、お願いします。次に、BIMデータ対応建築設備CAD活用実践セミナーについてです。当JAFMEC主催によるオンラインセミナーのプログラムとして、建築設備CADソフトRebroを活用したセミナーを全4回開催しました。

- 資料の8ページ、お願いします。まず12月に機械作図・電気作図編を開催しました。
- 資料の9ページ、お願いします。また1月には設計業務の効率化、建築確認BIM化を見据えた属性情報活用の可能性など、実務に直結するテーマを設定しました。計4回で延べ145名の設備設計事務所、全国官公庁職員の皆さまにご参加いただき、非常に盛況な結果となりました。

### 3. 都道府県協会(単位会)におけるBIM推進活動状況(pp.10-14)

- 資料の10ページ、お願いします。次に都道府県協会における活動の一例をご紹介します。千葉県では、建築設備設計関係6団体、行政が連携した千葉県BIM推進会議を立ち上げています。
- 資料の11ページ、お願いします。2024年に続き昨年12月にも、BIMの普及と人材育成を目的とした「千葉BIMワークショップ2025」を開催し、県内の建築関係団体が連携して、設計・施工分野の実務者がBIMを学べる場を創設するなど、千葉のBIM活用を実務レベルで広げる取り組みを進めています。
- 資料の12ページ、お願いします。こちらは千葉県ワークショップでの講習資料を抜粋したものです。
- 資料の13ページ、お願いします。東京都ではBIM小委員会が中心となり、BIMに関係する講習会を毎年開催しています。今年度は確認申請におけるBIM審査の現状と今後の動向についてテーマとするなど、実務に即した内容を設定しています。特にその他の活動として、本年1月の東京都協会設立20周年記念行事の中で、設備BIMモデルのデモも実施し、会員外を含め多数の皆さまにご参加いただきました。
- 資料の14ページ、お願いします。また東京都協会のホームページでは、BIM使用のコンテンツ紹介を通じた啓発活動も継続して行っています。

### 4. 令和8年度活動方針(p.15)

- 資料の15ページ、お願いします。次に今年度の活動報告について2点ご説明します。1点目はBIM実践レクチャーの充実です。これまでの初級編に加え、より実践的な中級編レクチャーを実施することで、会員のスキルアップを段階的に支援していきます。2点目はBIM導入状況の詳細アンケート調査の実施です。過去の国交省による調査では、当JAFMEC構成員でもある設備設計事務所からの回答はわずか120社にとどまっていた。そこで全国の構成員を対象に改めて調査を行い、現状の課題を精緻に分析した上で、次の施策につなげていく方針です。

### 5. まとめと今後の課題(p.16)

- 資料の16ページ、お願いします。最後にまとめと課題です。設備設計事務所へのBIM導入には一定の進展が見られますが、導入はしていても有効活用されていない課題が浮き彫りになっています。また活動が進んでいる都道府県協会と、そうでない協会の地域格差も課題です。来年度は未進展の協会へ積極的にアプローチし、全国的な底上げを図っていきます。以上がJAFMECからのご報告になります。引き続き全国中小の設備設計事務所全体のBIM活用推進に向けて、効果的な推進方策を検討しつつ取り組んでいきますので、ご指導、ご支援をよろしくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは、続いて建築設備技術者協会さまからご説明をお願いします。佐々木委員、よろしくお願いします。

## ⑥【団体報告】 建築設備技術者協会

資料 12 【団体報告】 建築設備技術者協会 説明資料

### 佐々木委員(一般社団法人 建築設備技術者協会)

- それでは、令和7年度建築設備技術者協会におけるBIMの取り組みを佐々木から発表します。

#### 建築設備技術者協会におけるBIMの取り組み(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。まず建築設備技術者協会におけるBIMの取り組みです。JABMEEが取り組む建築設備の課題として大きく8つを取り上げていて、それぞれに専門のワーキングが設けられています。その一つにBIMワーキングがあり、JABMEEにおけるBIMはこのワーキングが主体となって活動しています。またJABMEEは建築設備技術者の相互協力を促す協会ですので、その母体として、建築設計事務所、ゼネコン、サブコン、ビルメンテ、メーカー、学識とさまざまな方が協会に参加しているため、それぞれの領域から参加したメンバーでこのワーキングを構成しています。

#### JABMEE BIM WGの目的・活動内容(p.3)

- 資料の3ページ、お願いします。活動の目的としては、冒頭に申し上げたように、それぞれ立場の異なる設備関係者が協調する場ですので、標準化等に関しては他のタスクフォースに委ね、そこからの情報共有を主に行っています。

#### R07活動:設備分野におけるプロセス横断に関する取り組み(p.4)

- 資料の4ページ、お願いします。今年度に関しては、こちらのシートが活動の主体となります。設備分野におけるプロセス横断に関する取り組みです。こちらのメインに掲げている図は、建築分野における標準ワークフローのガイドラインの中にも描かれています。プロセス横断的な活動が進んでいないBIMとして示されていましたが、設計から施工、施工から維持管理での不連続性の状況を、設備分野においても現状を情報共有することを活動の主眼に置きました。
- まずはお互いを知ることで、それぞれのステージにおける取り組み、ユースケース、フィードバック、設備のLOD・LOIに関して3回にわたり情報交換をしています。設計BIMにおいては、営繕BIMモデルへの意見照会。確認申請の制度が動き出しますが、それと同時に営繕BIMで設計の入れ方などの詳細の参照が示されたので、そこにおける意見を共有しました。その中において、設備の領域では3Dモデルよりも情報モデルが優先されますし、設備設計においては末端まで全てを書き切ることは合理的でなく、適宜CADやExcelなどの情報を使っていくことが推奨されているのが設計BIMの状況です。
- それをメーカーの関係者等にも認識していただいた上で、今度は施工BIMの状況として、サブコン9

社が連携されている設備BIM研究連絡会との連携を図りました。設備における施工の視点でのBIM活用のユースケースとしては、やはり機器の特性を発注とリンクさせることにポイントがあるため、必要になる機器のファミリーは設計よりもはるかに細かい情報が必要であることがご報告されています。

- 施工においては、一般の汎用(はんよう)機器としてわれわれが扱う設備機器にはファンやポンプなどもありますが、接続する配管の位置や向きが違うだけでも機器の特性は変わってしまいます。設計においては向きの情報は必要でなく、施工につなぐ時に汎用的な情報のみがあればいいといったことで、やはり設計BIMが求めるものと施工BIMが求めるものの違いが大いにあることがここでも認識されています。
- その他、施工BIMにおいては、それらの機器をつなぐ配管やダクトなどの部材の情報も非常に重要です。これは施工BIMにおいて初めて要求される要件であり、設計段階においてはそれほど要求されていないことがあります。また昨今の話題としてBIM図面審査が取り上げられますが、施工BIMにおいてはこの情報は現時点でまだ影響がないことが共有されています。
- 施工BIMの視点で作られたBIMが、今度は維持管理BIMのほうにチューニング、カスタマイズされていきますが、維持管理BIMの視点からもご報告いただくと、LODよりもLOIが重要で、特にアセットに関するものが入ってくると。その視点は施工BIMにおいてはあまり重要度が求められていない中、どのようにリンクさせるかがやはり課題として存在していました。
- また維持管理BIMはユースケースの事例も少ないのですが、日常で必要となるデータと緊急時に必要となるデータで、LOD・LOIに求めるものも変わってくるのがご報告されています。施工から維持管理へつなぐ時に、このデータの程度感、設備分野における特異性を、これから意見交換をして明らかにしていくことが有益ではないかといったことを3回に分けて議論してきました。

#### 今後の予定(p.5)

- 資料の5ページ、お願いします。このような活動を次年度も継続する予定でして、特に先ほども申し上げた、各プロセスを横断する関係者間での情報・ビジョン共有を建築設備技術者協会としてはより推進させていこうと考えています。以上でご報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- ご説明ありがとうございました。それでは資料7～12について、ご質問、ご意見等がありましたら、よろしくをお願いします。よろしゅうございますか。ありがとうございました。
- 続いて、施工関係団体として、日本建設業連合会さまからご説明をお願いいたします。曾根委員、よろしくをお願いします。

#### ⑦【団体報告】日本建設業連合会

資料1【団体報告】日本建設業連合会 説明資料

#### 曾根委員(一般社団法人 日本建設業連合会)

- 日建連の曾根です。よろしくをお願いします。

## はじめに | 日建連の建築BIMロードマップ(p.1)

- 資料の1ページ、お願いします。日建連ではロードマップを作成しています。目標として、2025年にBIMを中心とした業務スタイルの確立、2030年にBIMを中心とした業務スタイルの定着を掲げています。右側に主な成果物を示しています。建築BIMは、設計、施工、維持管理、運営を含めて、プロセスを横断してBIMをどう使うかを検討するところです。その下の設計BIM、施工BIM、さらに下の人材教育の分野で活動しています。

### ① 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。まず設計施工一貫方式におけるBIMのワークフローです。日建連会員企業にアンケートを毎年取っています。生産性向上のために着手している取り組みとして、2024年度の実績を見ていただくと、濃い青色が「適用できる全ての現場で取り組んでいる」、隣のだいたい色が「適用できる現場の半数以上で取り組んでいる」、その隣の緑色が「適用できそうなところに取り組んでいる」というグラフになっています。
- これを2023年度と比べていただくと、だいたい色の「取り組める案件の半数以上で取り組んでいる」と回答している会員企業がこの1年の間で増えてきています。ロードマップで示しているように、業務スタイルの確立ができるように情報提言などを発信してきました。このような情報を使っていただいて、確立から定着に向けて動き始めているのではないかと推察しています。

### ② 設計部門と施工部門の共創(ワークフローを提唱)(p.3)

- 資料の3ページ、お願いします。ロードマップを実現させるために、ワークフローが非常に重要であると私たちは考えています。国交省のガイドラインでもさまざまなワークフローが示されていますけれども、設計施工一貫方式に特化したワークフローを提唱しています。そのために、設計段階での設計部門と施工部門の共創が非常に重要であると考えています。
- 今回ワークフローを4つ作成しています。左側が大きな考え方である設計段階での設計者と施工者の共創、真ん中に「作成中」と書いてあるのが設備部門のワークフローです。特に作成中の左側は、設計段階で建築と設備がどのように情報のやりとりをしながら業務を進めていくかを、右側の設計と施工は、設備工事において施工者とどのように情報を連携していくかを示したワークフローになります。これらのワークフローはあくまでも一例という認識であり、プロジェクトの始まるタイミングに合わせて、きちんとBEPで関係者間が共有、周知してから作業を始めることが重要であると考えています。

### 参考資料① | BIMによる設計部門と施工部門の共創(例)(p.4)

- 資料の4ページ、お願いします。こちらが設計段階における設計部門と施工部門の共創です。一番上にキーデートを示しています。S1の基本計画段階から設計者ないしは施工者を交えてBEPを明確にしてから作業に取り掛かるということです。
- 設計BIM、施工BIM、専門工事会社のBIMがそれぞれ横軸に入っていますが、単純に横に設計・施工と並べるだけではなくて、やはり作業はコンカレント、同時進行で動いています。例えばそれぞれのステージが区切りのついたタイミングで、ここでは設計BIMから施工BIMに赤の矢印が、施工から設計に紫の矢印が上のほうに向かっていきますけれども、必要なタイミングで必要な情報をそれぞれ

が共通データ環境(CDE)で共有していくというフローを周知していきたいと考えています。

#### 参考資料② | 鉄骨工事編 BIMによる設計部門と施工部門の共創(例)(p.5)

- 資料の5ページ、お願いします。先ほど示したのが一般的な考え方ですけれども、特に鉄骨工事に関しても同様にワークフローを提唱しています。こちらは、鉄骨工事の中で使う生産情報を具体的にどのステージで決めるか、あるいは鉄骨ファブに渡すか、ということを具体的に示したワークフローになっています。

#### ③『施工BIMの活用ガイド(第4版)』の公開(p.6)

- 資料の6ページ、お願いします。次は『施工BIMの活用ガイド(第4版)』の公開です。BIM部会が公開した資料の中でも、かなり多くの方々に活用していただいている活用ガイドになります。今まで第3版まで公開してきました。今回は活動の集大成として内容のアップデート、用語の定義等を見直しています。

#### 参考資料③ | 施工BIMの活用ガイド(第4版)(p.7)

- 資料の7ページ、お願いします。施工段階のワークフローに対して、どのステージでどのようなBIMの活用ができるかを活用メニューとして一覧で示したインデックスです。

#### 参考資料③ | 活用メニュー(部分)24項目を解説(p.8)

- 8ページは具体的に示している活用メニューの例です。24項目を解説しています。

#### おわりに | 2026年度の展開(主な活動計画)(p.9)

- 資料の9ページ、お願いします。終わりに来年度の主な活動計画です。1つ目に、今お示してきたワークフローの公開、周知を図っていきます。
- 次に日建連としては、2035年・2050年に向けてBIMの在り方を討議していきたいと思っています。2035年・2050年に向けた「長期ビジョン2.0」、さらには今より生産性を25%上げるためにさまざまな施策を提言している「生産性向上推進要綱2.0」が公開されています。これらの方針と足並みを揃えて課題解決に向けた取り組みの方向性を改めて討議していきたいと思います。
- その下は教育・啓発活動です。毎年開催している日建連BIMセミナーを次年度も6月に開催します。ここでは設計・施工・設備、それぞれの担当者からBIMのワークフローに関して周知、解説を行います。
- 2年に1回出している事例集は、今まで「施工BIMのスタイル」という名前でした。次年度は「建築BIMのスタイル」に名前を変えます。施工管理者のBIMだけではなく、設計者、設備技術者、設備設計者の視点からもBIMの事例を収集して公開する予定です。

#### 各種資料の入手先 | 日建連 - BIM部会HP(p.10)

- 資料の10ページ、お願いします。各種資料の入手は日建連BIM部会ホームページからダウンロードいただければと思います。日建連からは以上です。ありがとうございました。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは続いて、全国建設業協会さまからご説明をお願いします。田伏委員、よろしくお願いします。

## ⑧【団体報告】 全国建設業協会

資料 14 【団体報告】 全国建設業協会 説明資料

### 田伏委員(一般社団法人 全国建設業協会)

- 全建委員の田伏です。よろしくお願いします。全建の活動報告をさせていただきます。音声は聞こえていますか。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- はい、大丈夫です。

### 田伏委員(一般社団法人 全国建設業協会)

- 全建は今まで団体報告をしていませんでしたので、まず全建における建築BIMに関わる取り組みについて簡単にご説明します。本会議をはじめとするBIMに関する関係会議等に参画するとともに、DXやi-Constructionの取り組みが不足する中で、ICT施工などのBIMに係る各種情報等を含めて最新情報を収集し、会員企業に適宜提供を行っています。
- また会員企業の課題の把握に努め、関係機関等への必要な提言、要望を行うなど、BIM活用による会員企業の生産性向上を推進するための活動を行っています。昨年9月には全国建設業協会生産性向上計画を策定し、この中で、BIM/CIMを活用している会員企業の割合が現状20%弱であるのに対して、2029年度までに40%とする目標を掲げており、そのための取り組みやフォローアップにも注力していくこととしています。
- 会員企業の情報収集のための生産性向上の取り組みに関するアンケート調査を実施し、その結果については本会議においても例年参考資料として報告しており、個別の団体報告は行っていませんでした。今年度は団体報告としてアンケート調査の内容や結果についてご説明させていただきます。

### 令和7年度 生産性向上の取組に関するアンケート 調査概要(p.2)

- 2ページ目、お願いします。調査概要を記載していますが、本アンケート調査は、会員企業の生産性向上への取り組み状況や課題等を把握し、各種会議や要望等を行う際の基礎資料として活用するものです。調査対象は全建の会員である47都道府県の建設業協会とその会員企業となります。今年度は4月から5月に調査を行い、2,000件弱の回答を得ています。

### 企業の属性(pp.3-4)

- 3ページ、4ページ目には、回答のあった企業の属性を記載しています。なお全建の会員は地域の中小建設業者が大半ですが、土木工事を主体とする企業が多いため、BIMとCIMをまとめて問うてい

る設問があります。

## 1. ICT施工の取組状況(p.5)

- 5ページ目では、生産性向上の取組み状況を聞いています。先ほどもお話したとおりBIM/CIM活用は、令和5年は14%強であったのが近年は20%弱となり、取り組む企業が増えてきていましたが、近年は頭打ちの傾向が見られます。

## 2. BIM/CIMの活用状況-受注実績(p.6)

- 6ページ目はBIM/CIM活用工事の受注実績ですが、受注実績も大きくは進捗(しんちよく)していないのが実情です。

## BIM/CIM活用工事の発注者毎の工種について(p.7)

- 7ページは受注実績がある場合の工種ですが、建築工事は土木系の工種に比べて低い傾向が見受けられます。

## BIM(建築分野)の活用状況(p.8)

- 8ページ目はBIMに特化した設問で活用状況を聞いていますが、活用実績がある企業は3.5%、「今後活用したい」も11%にとどまる一方、「活用予定なし」で過半、「詳細不知」を含めると7割を超えています。ここでもBIMの普及が進んでいない現状が読み取れます。

## BIM/CIM活用の利点(p.9)

- 資料の9ページ、お願いします。BIM/CIM活用の利点ですが、「施工ステップの可視化による安全性や作業効率の向上」と「設計内容の可視化による理解度アップ、関係者の合意形成」が5割を超える結果となっています。

## 活用に際しての課題(p.10)

- 資料の10ページ、お願いします。活用に際しての課題となりますが、「精通した技術者の採用・育成」や「ハード、ソフトが高額」といった人材面、コスト面の課題が多くなっています。

## BIMを活用しても生産性が向上しない場合の理由(p.12)

- 12ページでは、BIMを活用しても生産性が向上しない場合の理由を聞いていますが、モデルと発注図書との不一致による修正や、自社で作成する場合の時間とコストがかかり過ぎるなどの課題が得られています。

## その他、生産性向上全般について意見等(pp.13-15)

- 13ページ以降には生産性向上全般に関わる意見を載せていますが、ここでも人材面、コスト面、モデルの精度や提供が課題として挙げられており、BIMの普及を進めるためにはこれらの解決が重要と考えられます。アンケートの説明は以上となります。詳細については全建のホームページに掲載されていますので、ご確認をお願いします。次年度も同様のアンケート調査等の実施による会員企業の現状や課題の把握に努めるとともに、課題解決に向けた取り組みや最新情報等の提供など、会員企業の

BIM活用による生産性の向上が進むよう活動していきたいと考えています。ご報告は以上となります。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは続いて、日本電設工業協会さまからご説明をお願いします。三村委員、よろしくをお願いします。

## ⑨【団体報告】 日本電設工業協会

資料 15 【団体報告】 日本電設工業協会 説明資料

### 三村委員(一般社団法人 日本電設工業協会)

- 日本電設工業協会の三村です。よろしくをお願いします。令和7年度のBIMの取り組みをご説明します。

#### はじめに／2023年度から2025年度の経緯(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。初めに、2020年から活動を開始しています。2023年度から2025年度の経緯は記載のとおりです。

#### 2025年度の実績(pp.3-4)

- 資料の3ページ、お願いします。2025年度の実績です。BIMライブラリ技術研究組合さまの動向ヒアリングと同組合との意見交換を実施しました。それから標準化タスクフォースの動向もヒアリングさせていただきました。独自の取り組みとしては、盤のバージョンアップと展開です。
- 資料の4ページ、お願いします。内容は分電盤、動力盤、配電盤など電設協として標準の組織を整理して、BIMベンダーや盤メーカーのホームページに掲載していただいています。

#### 2026年度以降の実績(p.5)

- 資料の5ページ、お願いします。2026年度以降の実績です。建築確認申請におけるBIM図面審査の本格導入や将来的なBIMデータ審査への移行動向を踏まえ、建築分野におけるBIM活用の高度化・標準化に継続して対応するとともに、電気設備業界としてBIMデータを前提とした業務プロセスの構築・施工品質の向上・人材育成を加速しようと思っています。
- 具体的には、昨年度の盤リストの活用とその見直しです。それ以外の標準化も検討しています。それから業務プロセスやデータの標準化として、施工プロセスにおけるBIMの標準化、標準化によるBIMの普及・展開の加速に向けた活動、ファミリー・テンプレート・教育コンテンツの共同整備を行います。
- 実際は今検討中ですが、別のチームというか、ファミリー、テンプレート、ワークフロー、教育体制等を専門的に検討する分科会活動を現在計画中です。そのため外部団体の方々、電気関係だけではなく、設備の方や設計・建築関係の協会、連合会の方と来年度は意見交換をさせていただき、電気設備関係のBIM活動の加速を図りたいと思っています。以上です。ありがとうございます。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは続いて、日本空調衛生工事業協会さまからお願いします。古島委員、よろしくお願いします。

## ⑩【団体報告】日本空調衛生工事業協会

資料 16 【団体報告】日本空調衛生工事業協会 説明資料

### 古島委員(一般社団法人 日本空調衛生工事業協会)

- それでは、令和7年度の日空衛のBIM活動報告を古島からご説明申し上げます。

#### 1.ワーキング活動について(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。今年度、日空衛では4つのワーキングを組成し活動を進めていたが、それぞれの日本国内での事例が少ないという課題に直面していて、BIMの導入が進んでいる海外の事例を参考にしたいとの機運が高まっていました。

#### 2.海外BIMの事前調査(pp.3-5)

- 資料の3ページ、お願いします。このような状況の中、香港・シンガポール・タイの3カ国のBIM実態を視察する機会があったので、今後の参考とするとともに、本日その一端をご紹介しますと思います。
- 資料の4ページ、お願いします。視察に先立ちこれらの国々のBIMの状況をウェブにて調べました。まずはBIMの導入経緯です。香港、シンガポールについては2013年ころより国が主導してBIMの導入を進めており、一定の規模以上の公共工事ではBIMの導入が必須となっているようでした。タイでは民間主導のようですが、大規模開発物件の過半数においてBIMの導入が要求されていました。
- 資料の5ページ、お願いします。次に国の政策、教育、ライセンスについてです。香港、シンガポールでは、国がロードマップを策定してBIM導入を強力的に推進しており、充実した教育プログラム、あるいは政府による教育修了認証など、BIM技術者の地位の保証に取り組んでいるようでした。タイについては業界団体や民間企業が主導してBIMの標準化やISOに対応した研修を展開していることが分かりました。

#### 3.海外BIM視察結果(pp.6-7)

- 資料の6ページ、お願いします。これらの情報を携えて現地に伺いました。
- まず活用の事例としては、図1のようなAR技術を活用してBIMデータと現場の施工物を確認する作業が普通に行われていました。また図2のように、作業員の理解度を深めるために施工手順のアニメーション動画を作成していました。さらに図3のように、日本でも当たり前になりつつありますが、現場の3D点群データとBIMデータを重ね合わせて作成した施工計画の動画を多数見ることがありました。
- また図4にあるように、BIM実行計画、BEPについては、訪問した全ての現場で確認することができました。建設工事の元請けが作成したものを専門工事会社などが共有する形になっています。
- 図5にあるように、BIM教育・資格関連では、現場のBIM技術者の保有している資格書を提示しています。役割に応じた教育を受け、資格も習得しているようでした。

- 資料の7ページ、お願いします。次に政府のBIM対応事例です。図6は香港政府の例ですが、日本円で見積金額6億円以上の公共建築では、BIM技術の導入と技術者の配置を義務化する通達が発信されていました。さらに図7で、助成金については2018年にCITFという基金を創設し、BIMなどの革新的な建設方法や技術の推進に手厚く助成していることが分かりました。

#### 4.まとめ(p.8)

- 資料の8ページ、お願いします。まとめです。日本では今年の春からようやくBIM図面審査が開始されます。将来的にも2029年春のBIMデータ審査を経て、さらなるBIMデータの活用の普及を進める必要があります。日空衛としてもこれまでの海外事例を今後のワーキング活動の糧として取り組み、微力ではありますが、BIMの普及に向け尽力していきたいと思えます。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

#### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは続いて、日本建材・住宅設備産業協会さまからご説明をお願いします。松下委員、よろしくをお願いします。

### ⑪【団体報告】日本建材・住宅設備産業協会

資料 17【団体報告】日本建材・住宅設備産業協会 説明資料

#### 松下委員(一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会)

- 建産協における取り組みを松下より報告します。

#### 建産協における取組(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。改めて、BIMへの取り組みの経緯です。BIMを活用したプロセスにおけるメーカーの役割や部品メーカーとしての業務効率化などに関して課題を整理し、適切な関わり方を提案していくことが必要との認識の下、検討を開始しています。

#### 建産協における取組 検討体制(p.3)

- 資料の3ページ、お願いします。こちらは検討体制です。委員長として清家先生、大学関係として志手先生、その他参加しているのはこちらようになります。

#### 現在までの主な取り組み(全体)(p.4)

- 資料の4ページ、お願いします。現在までの取り組みになります。発足以来、製品を窓・住設・素材の3つのカテゴリーに分類して取り組んできました。今年度は窓に関する乾式工法における外装別の窓の属性の整理が主な取り組み内容になっています。

#### ユースケース:属性リストによる窓の積算検証(2024年度の活動)(pp.5-6)

- 資料の5ページ、お願いします。今年度の取り組みのご説明の前に、今回の取り組みに至った経緯をご

説明します。こちらは2024年度に取り組んだ属性リストによる窓の積算についての検証です。第14回の建築BIM推進会議でもご報告している内容の抜粋になりますが、検証内容としては、第三者に設計の目線で属性を実装させたBIMモデルを作成していただき、それをわれわれが積算システムに取り込むことで、正しく積算ができるか検証しました。検証における積算システムに取り込む作業としては、現時点ではシステムがないため、手入力による作業になっています。

- 資料の6ページ、お願いします。こちらは検証の結果です。作業の中で以下のような実務的な課題が確認できました。1つは入力ミス、入力漏れです。2つ目に、属性値とモデルで相違している箇所がありました。3つ目は、重複する属性が存在したことです。これにより、効率化というよりも、逆に非効率になる場合や製作できないものを積算してしまうリスクが確認できました。これらの現象は実際にも十分あり得る事象であり、今年度の活動に生かすこととしました。

### 2025年度のテーマの概要(p.7)

- 資料の7ページ、お願いします。改めて、ここから今年度のテーマについてご説明します。テーマ名としては、乾式工法における外装種別の窓の属性の整理になります。
- 概要ですが、ある程度パターン化されているALC、ECP、サンドイッチパネルなどを対象としており、初回提出用の施工図への情報と割り切ることで、その上での最低限必要な属性と寸法を整理しました。そうすることで、初期段階において設計者に決めていただく項目は非常に少なくなり、双方の効率化につながるものと考えています。また設計者に決めていただく属性以外はメーカー推奨仕様とすることにより、製品や納まりの集約化にもつながるものと考えています。

### 乾式工法の寸法体系と属性の整理(pp.8-9)

- 資料の8ページ、お願いします。こちらは一例としてのALC納まりになります。赤い四角で囲った外壁の種類や厚み、サッシの出入りの寸法を設計者に決めていただき、その情報を基に、それ以外の寸法等は一般的な納まりを念頭にメーカー側で決め、サッシ本体の仕様情報と合わせて初回サッシ施工図を作成するものです。このようにすることで、設計者は細かな寸法を指定する必要はなく、効率化、ミスの削減につながるものと考えています。
- 資料の9ページ、お願いします。こちらが属性リストです。各属性項目について、設計者に決めていただきたいレベルによって属性を4つに分類しました。
- 1つ目は、設計者に確実に決めていただきたい項目、例えば耐風圧や防火性能です。2つ目は、可能な限り設計者に決めていただきたい項目です。これは1に比べると優先度は低くなりますが、メーカーとして設計者に決めていただきたい項目となっています。こちらは頻度の高い選択肢は初期値として設定をしています。
- 3つ目は、設計者では決められない、決めにくい項目です。こちらについては設計者側で決めなくてもいいように、選択肢に「メーカー標準」という項目を設け、それを初期値として設定しています。
- 4つ目は、設計者に入力してもらわない、メーカー側で決めたほうが良い項目です。こちらは非常にミスの起こりやすい項目となっています。
- 以上のように分類しながら整理を行ってきました。実際の業務フローに取り込むにはまだまだ課題も多いと考えられますが、引き続きさらなるブラッシュアップを進めていき、公開方法についても検討し

ていきたいと考えています。以上で報告を終わります。ありがとうございました。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは、時間が予定よりも15分以上遅れていますので、次に移りたいと思います。維持管理・発注者関係団体としまして、不動産協会さまから田村委員、よろしくお願ひします。

## ⑫【団体報告】 不動産協会

資料 18 【団体報告】 不動産協会 説明資料

### 田村委員(一般社団法人 不動産協会)

- 不動産協会の田村です。よろしくお願ひします。当協会のBIM活動についてご報告します。

#### 不動産協会 BIM活動報告(p.1)

- スライドの1ページには、時系列で当協会の活動報告を記載しています。主な活動として、発注者および設計・施工者において、業務効率および生産性の向上を目的に、発注者が留意すべき発注者情報要件、EIRの標準化の促進を行ってきました。具体的な取り組みについては当該スライドの今年度、令和7年度に記載しています。当協会はこちらのBIM推進会議の方針を踏まえて、令和5年度から協会内に専門分科会を立ち上げて体制を強化し、発注者の立場でBIM普及に向けた本格的な議論を行ってきました。
- 令和6年度は、発注者が設計者へBIM設計図書を発注する際に、双方にメリットがあることが普及の鍵であるとの認識の下、その可能性を検討してきました。その結果、BIMによる設計図書は従来のCADと比較して、設計図書からパンフレット図面を直接生成できるため図面の誤りが大幅に減少し、整合性確認に要する時間や手間を抑えることが可能な点で、BIMを利活用すれば、マンションなどのパンフレット図面を直接作成しやすいことが明らかになりました。
- これらの成果を踏まえて今年度、マンションのパンフレット図面作成に焦点を当てて、BIM設計図書の作成を促すための要領整備を進めてきました。その一環として、設計者・施工者の負担軽減を目的に、BIMで作成可能なパンフレット図面のプロット凡例を標準化した、不動産協会標準のプロット凡例集を作成しています。これによって設計者・施工者のプロット凡例の検討や事業者ごとの個別作成が不要となり、業務効率化が期待されます。
- またパンフレット図面の作成を前提としたBIMの標準EIRの整理も進めていて、標準のEIRを作成しています。これによって、BIM標準EIRを設計者に提示することでパンフレット図面をスムーズに作成でき、BIMモデルの構築が可能となり、BIM活用の実効性が高まると考えています。
- 発注者としては、建築のプロセスにおいてBIMを活用しなくても業務遂行が可能である点、またBIM活用はやはり専門人材が必要であり一定のコストがかかるため、まだまだ機運醸成が道半ばであることが課題であると思っています。
- その機運醸成のため、これまでもお伝えしたプロット凡例集と標準EIRを当協会ホームページにて公

開してしまし、ちょうどあした会員企業宛てに取り組み報告として周知を行う予定です。ただこの春から導入されるBIM図面審査を踏まえて、引き続き発注者としてBIM利活用の普及を進めていきたいと思っています。

#### <参考> 集合住宅パンフレット図面の標準凡例集(pp.2-3)

- 資料の次ページ以降が成果物となっています。2ページ目がプロット凡例集です。3ページは例ですが、それを落とした図面です。

#### <参考> 集合住宅パンフレット図面作成EIR(p.4)

- 資料の4ページ、お願いします。最後はEIRです。EIRは30枚ぐらいあって全ては載せていませんが、1枚目だけ参考に載せています。お時間がある時にご覧いただければと思います。不動産協会は以上です。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- ありがとうございます。それでは続いて、日本コンストラクション・マネジメント協会さまからご説明を服部委員にお願いします。

## ⑬【団体報告】 日本コンストラクション・マネジメント協会

資料 19【団体報告】 日本コンストラクション・マネジメント協会 説明資料

### 服部委員(一般社団法人 日本コンストラクション・マネジメント協会)

- では、CM協会の服部からご紹介します。協会全体の活動というよりは、個社の活動を今回取りまとめた資料になっています。

#### CM(Construction Management)とは(p.2)

- 資料の2ページ、お願いします。CMとは皆さんがご存じのとおり、設計者でもなく施工者でもなく、発注者側のコンサルティングを行う団体、業務です。その中で発注者視線から、いかにBIMの活用を提案したり支援したりできるかを日々考えています。

#### 発注者の期待に応えるBIM活用について(pp.3-4)

- 3ページはワークフローですけれども、発注者がBIMなりデジタル技術に関与する部分は、ステージというS0、S1等の川上部分と、竣工後のS6、S7、維持管理段階となりますので、この川上・川下の領域でどのようにBIMやデジタル技術を使っていくかを協会として考えている状況です。
- 資料の4ページ、お願いします。そのような中、過去のモデル事業ではいろいろなアプローチから対応しています。詳細についてはここでは省かせていただきます。

#### BIM活用事例(pp.5-11)

- 資料の5ページ、お願いします。活用事例として6点を挙げています。
- 資料の6ページ、お願いします。私どもは建設プロジェクトや発注者へのコンサルティングを行っていま

すけれども、その中で比較的引き合いの多い業務をここに挙げています。BIMモデルを作る業務のサポート、プロジェクトにおける発注者側のEIR、受け手側のBEPの案などの作成支援、またはBIMに特化せずにデジタル全体の活用を支援する業務などができています。

- また下の段はBIMを活用した業務になりますが、先ほどご説明のあったようなCM協会、CM側からの工事費概算算出のシステムや、ライフサイクルCO<sub>2</sub>などのBIMを使った算出、最終的には施設管理にBIMを使ったFM構築支援を今活動している状況です。
- 7ページから具体的なプロジェクトについてご紹介しますが、こちらは以前ご紹介しています。八幡市さんがBIMを使いながらFMシステムを構築する段階で、今活用に入っていますが、やはり八幡市さんの官庁側での対応はなかなか難しい課題が出てきている状況です。
- 資料の8ページ、お願いします。具体的には建物の情報管理や維持管理のプロセスのシステム化、または中長期的なライフサイクルの資産管理の部分でBIMを活用していますけれども、今後の発展を検討しているところです。
- 資料の9ページ、お願いします。最近外資系のデータセンター等でEIRの作成、またはBIMマネジメントでの引き合いが増えてきています。こちらはシンガポール系のプロジェクトで、まず設計、CMとは別に、BIMマネジメント業務を対応してほしいということで引き合いがかかっています。
- 資料の10ページ、お願いします。一方既存建物に対してどのようにBIMを活用するかということで、これはBIM加速化事業のプロジェクトですけれども、歴史的建物を含む高層建物7棟のモデル作成など、今度どのようにBIMを使っていくかの検討も行っています。
- 資料の11ページ、お願いします。少し毛色が違いますけれども、施工会社からBIM活用の支援をしてほしいとのことで、工事管理用のBIMが工程管理等にも活用されていることをここでご報告します。

#### **発注者側のBIM活用に向けた取り組み(CM個社事例)／今後のBIM活用に向けた提言(pp.13-14)**

- 資料の13ページ、お願いします。最終的にCM協会としては、いろいろな発注者側のBIM活用を狙って支援していますが、BIMを使った発注者側の事業におけるデジタル技術の活用事例のご紹介や、14ページにあるように、そのようなBIM活用の中から発注者側の事業や経営の部分でのサポートを差し上げることで、デジタル技術を使いさらなるコンサルティングの領域を広げながら、発注者側の価値を高める活動をしている状況です。少し急ぎでご紹介しましたが、CM協会からは以上になります。ご清聴ありがとうございました。

#### **松村委員長(神戸芸術工科大学学長)**

- どうもありがとうございました。それでは次に、情報システム・国際標準関係団体としまして、建築行政情報センターさまからご説明をお願いします。安藤委員、よろしくをお願いします。

#### **⑭【団体報告】 建築行政情報センター**

資料 20 【団体報告】 建築行政情報センター 説明資料

## 安藤委員(一般財団法人 建築行政情報センター)

- 建築行政情報センターの安藤です。時間も押しているようですので、簡潔に説明したいと思います。
- 先ほど環境整備部会から冒頭でご説明があったとおり、この4月からBIM図面審査が開始されます。BIM図面審査に用いる確認申請用のCDEの名称をICBAではArchSyncと名付けましたけれども、この運用が開始されます。それに向けた取り組みを今年度進めてきました。

### ICBA確認申請用CDE(ArchSync)の利用開始に向けた取組(p.1)

- 情報発信としては、春先から申請者、設計者、審査機関、また消防同意を行う消防機関向けの説明会で制度やCDEの概要について周知をしてきました。また昨年11月には、より具体的なサービスの内容や、利用料金も含めた具体的な準備状況についてご説明しました。
- またこの2月、3月には、この4月からの運用開始を予定している審査機関に対して、具体的な業務の手順やCDEの操作方法を含めたトレーニングの実施、またCDEのサイト管理者向けの説明会なども行い、4月を迎えるための準備を進めてきました。

### 対応審査機関/対応消防機関 ※3/13時点(pp.2-3)

- 現段階で4月からの審査の開始を予定している機関については、先ほどご説明があったので詳細は省略しますが、また別途ご相談を受けている機関もありますので、順次増えていくのではないかと考えています。ホームページ上で具体的な審査機関を公表していますので、そちらもご参照いただければと思います。
- 最後に、制度開始直後の4月2日に最新の情報を盛り込んだArchSync説明会をオンラインで開催予定です。今週末まで申し込みが可能で、既に1,000人を超える方にお申し込みいただいていますので、こちらもご参考にしていただければと思います。説明は以上です。

## 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは質問時間を割愛して、続いて議事次第の4、その他です。これは資料21ですが、事務局からご説明をお願いします。

## (4) その他

### ① 来年度の建築BIM推進会議の体制について

資料 21 来年度の建築BIM推進会議の体制について

## 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

### 次年度以降の体制について(p.1)

- 次年度以降のBIM推進会議の体制について、先ほど部会2のBIMライブラリ技術研究組合から報告がありましたように、今年度でこの組合としての活動を終えるということです。その場でもお話がありま

したが、昨年末にBIM標準情報活用協会(BIMSIA)が立ち上がり、この取り組みを引き継ぐとのこと  
です。推進会議の部会としても、このBIMSIAに部会2の取り組みを引き継いでいただきたいと考えて  
います。

- また関連する内容として、当初BIM推進会議が立ち上がった際に、部会にはならずとも人材育成、中  
小事業者の活用、それからAIを含むデータの活用等についての取り組みもビジョンの中で掲げられま  
した。これらに関連して、右側にあるように、BIM教育普及機構において、広く関係団体からなる「BIM  
教育普及推進協議会」が立ち上がる動きがあるとのことです。
- またを含むデータの活用については、国土交通省で来年春の策定に向けて検討している建築分野の  
中長期ビジョンの中でも、DXに特化したワーキングを立ち上げて、こうしたことも含めた議論をしてい  
きます。このような全体の動きとも連携しながら次年度以降、BIM推進会議の運営を図っていきたく  
と考えています。以上です。

## ② 学識委員からの意見

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございました。それでは最後になりますけれども、今日ご出席の学識委員の方からご  
意見を伺いたいと思います。蟹澤委員は発言が届かないところで、チャットで頂いていますので、まず  
蟹澤委員のご意見のご披露を事務局にお願いします。

### 蟹澤委員(芝浦工業大学教授)

- 失礼します。事務局より蟹澤委員のコメントを代読します。
- 4月から始まるBIM図面審査を控え、具体的な取り組みに拍車がかかっていることを実感しました。設  
計から施工へのプロセスについても、BIMを前提とした検討が進んでいるようです。建設産業の付加  
価値生産向上に向けた取り組みと理解しており、建設業が大きく変わる可能性を感じました。BIMデ  
ータ審査に向けて、業界が一丸となった取り組みがますます活発になることを期待します。
- 以上です。進行にお戻します。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- どうもありがとうございます。それでは小泉委員、よろしくお願いします。

### 小泉委員(東京都立大学大学院教授)

- 小泉です。音声は大丈夫でしょうか。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- はい、大丈夫です。

### 小泉委員(東京都立大学大学院教授)

- 今日、日建連さんの発表で「確立から定着へ」というような表現がありましたけれども、まさにそのようなことを実感しました。一方で、続く全国建設業協会さんの発表にあったように中小と大手での温度差、あるいはJAFMECさんの発表にもあったように地域差が見えてきて、その辺が今後の課題となるのではないかと思います。
- 加えて、部会3からは法令の構造化のお話もありました。確かに今は相当複雑怪奇なことになっているので、この辺を少しクリアにすることにチャレンジされるのは非常に有意義なことだろうと思います。どこまで行けるのかとは思いますが、ぜひ頑張ってくださいと思います。
- 一方で、それと矛盾することを申し上げるようですけれども、そのような形でクリアになればなるほど、逆に種々の判断が硬直化してしまわないかというところも少し心配ではあるかと思っています。やはり省エネ計算が義務化されましたがソフトの限界があり、対応しきれないケースが生じています。結局、対応できる範囲の中で設計せざるを得ないということがありましたので、そのようなことも含めて今後BIMを進めていくに当たっての一つ課題になるのではないのでしょうか。ですから来年度以降、その辺を丁寧にフォローアップしていくことが大切で、必要だろうと思いました。私からは以上です。

### 松村委員長(神戸芸術工科大学学長)

- ありがとうございました。

## 3. 閉会

---

### 野口(事務局/国土交通省建築指導課企画専門官)

- 松村委員長、ありがとうございました。スムーズな議事進行にご協力をいただきましたことに、事務局よりお礼を申し上げます。本日の資料は国交省のホームページに公開していますので、ぜひご参考ください。以上をもちまして、第16回建築BIM環境整備部会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上